

# 新大橋

## 開通記念誌



令和 2 年 8 月 29 日開通



鹿児島県 薩摩川内市



## 甌大橋開通に寄せて



鹿児島県知事 /

塩田 康一

県民の皆様におかれましては、かねてより県政の推進に御理解、御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

令和2年8月29日に甌大橋を含む蘭牟田瀬戸架橋工区が無事開通し、関係の皆様御列席のもと、開通式を挙行できましたことは、誠に喜びに堪えません。国土交通省や県選出国會議員並びに県議會議員の方々をはじめ、地元甌島の皆様の御支援、御協力の賜であり、心から感謝申し上げます。

蘭牟田瀬戸架橋工区は、甌島島民はもとより県民の方々の強い要望を受けまして、平成18年度に事業着手し、整備を進めてまいりました。その延長は、中甌島と下甌島を繋ぐ1,533メートルの「甌大橋」や「鹿島トンネル」(497メートル)、「黒浜トンネル」(587メートル)、「平良トンネル」(1,674メートル)の三つのトンネルを含む5.1キロメートルに及びものとなっております。特に、甌大橋は海流が早く、作業船が停泊するのも困難な蘭牟田瀬戸に、長大橋梁を建設するという難工事でありました。橋脚の最大支間長は、桁下の航路幅を確保するため日本最大級の165メートルにもなり、最も大きな橋脚は、15階建てのビルの高さに相当する高さ47メートルにも及びます。これらの橋脚は、現場での製作が困難であることから、申木野港で製作したケーソン基礎をフローティングドック(作業船)で運搬し、現地に据え付けるという、これまで県内では例のなかった工法をとっております。厳しい自然環境下における工事施工は、橋の工事だけでも8年以上の期間を要しました。

工事に携われた皆様の御苦勞に対し、深い敬意を表すとともに、あらためて感謝申し上げます。

このような難工事の末に完成した甌大橋を含む蘭牟田瀬戸架橋工区の開通により、上甌島と中甌島を繋ぐ「甌大明神橋」、「鹿の子大橋」とあわせ、三島すべて陸

路で繋がり、島民の方々の念願であった「甌はひとつ」が、まさに実現いたしました。

今後、甌島の災害応援体制や医療体制の向上をはじめ、島内物流の効率化によって島の基幹産業であります水産業の振興が図られるなど、地域の更なる発展に寄与するものと期待しております。

また、甌島は多様な海岸景観を有する国定公園であり、今後は、潟湖群(海鼠池、貝池、鋤崎池)と海を隔てる礁で形成された延長4キロメートルに及び海岸が景勝地となっている「長目の浜」や約8,000万年前から2,300万年前の太古の記憶が刻まれている「鹿島断崖」、「ナポレオン岩」などを遊覧船で巡る「断崖・奇岩クルーズ」に加え、県内最長の橋である甌大橋を活用したインフラツーリズムなど、新たな魅力ある観光ツアーの開発も可能となり、観光客の増加も期待されます。

県としましては、引き続き、薩摩川内市や地元の方々と連携し、観光プロモーションをはじめとする甌島地域の振興に全力で取り組んでまいります。今後も、皆様のより一層の御支援・御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



甌大明神朝景



## 甌島の発展に期待!!



薩摩川内市長 /

岩切 秀雄

令和2年8月29日、「甌大橋」の完成により、甌島市民の長年の悲願でありました「甌はひとつ」が実現しました。

「甌大橋」は、今から約30年前の旧4村の時代から「甌島縦貫道は、甌島発展の根幹」として建設促進の運動が進められ、平成3年3月に「鹿の子大橋」が、平成5年3月に「甌大明神橋」が完成し、上甌島と中甌島が結ばれました。

そして、残された「蘭牟田瀬戸」の架橋を実現するため、平成3年3月に「甌島架橋建設促進期成会」が、平成5年8月には当時の2市8町4村による「甌架橋建設促進川西薩広域期成会」が設立され、独自の調査や建設促進決起大会、甌島架橋シンポジウム、国県をはじめとする関係者への要望・陳情が行われてきました。

鹿児島県においても平成5年度から可能性調査等を実施され、さらに平成16年10月の1市4町4村による海を越えた広域合併による「薩摩川内市」の誕生を機に、事業化の可能性について国との協議が開始されました。そして、これまでの要望活動等が実を結び、ついに平成18年度に、蘭牟田瀬戸架橋建設事業着手の運びとなりました。

着手後も早期完成に向けて要望活動に取り組む一方、工事においては、県をはじめ、工事関係者のご尽力により、速い潮流や冬場の季節風などによる難工事を乗り越えて、さらに14年の歳月の末、ついに完成を迎えました。このようなことからこの度の甌大橋完成には、大変感慨深いものがあります。これまで絶大なるご支援をいただきました国・県議員及び国・県関係機関の皆様をはじめ、携わっていただいた地元の方々や工事関係者の皆様のご支援やご労苦に対し、衷心よりお礼申し上げます。

甌大橋の開通により、島内での自由な往来が可能となることで、甌島市民の日常生活圏は大きく変わることが予想されます。買い物や医療機関の受診など選択肢が広がり利便性が向上するとともに、島内での交流が活発になり市民活動の活性化が期待できます。

また、人や物の流れが島内で一体的になることで、島内経済や経営の効率化が進む一方、県内最長の甌大橋開通のインパクトにより島外からの人の流れが拡大することで、観光産業が活性化し、他産業や地域へ好影響を与え、島の活性化に大きく寄与するものと確信しております。

甌島は、豊かな自然と悠久の歴史文化に育まれてきました。橋の開通は、“新しい甌島”のスタートを予感させ、「宝の島」甌島の更なる発展を期待させます。甌島の課題である交通・通信、医療体制、行政の効率化などの解決と、将来へ向けた甌島市民の暮らしの向上、持続可能な暮らしの実現へ向け、今後も甌島市民の皆様と力を合わせて取り組んで参ります。



甌大明神橋





## 甌大橋開通おめでとうございます



薩摩川内市議会議長 /

新原 春二

甌大橋の完成・開通にあたり薩摩川内市議会を代表してお祝い申し上げます。

甌島市民の大きな希望と期待の中、平成3年甌島架橋建設促進期成会が結成され、スタートした念願の夢の架け橋でありました。

甌島市民、村・市行政当局の長年にわたる国、県への強力な要望・陳情活動により、平成18年「一般県道黒浜水深線、蘭牟田瀬戸架橋事業」として新規事業採択され夢の事業化が決定され、念願の架橋が工事着工の運びとなりました。

期成会発足以来29年の年輪を重ね、ここに令和2年8月29日開通の日を迎えました。この間の島民の皆様のご熱意と関係者の皆様のご熱意とご努力に感謝と敬意を表します。誠にありがとうございました。

平成3年に「鹿の子大橋」が、平成5年には「甌大明神橋」が完成し、上甌島と中甌島が結ばれました。残るは蘭牟田瀬戸に大橋をと「鳥ノ巣展望所」と「木ノ口展望所」から期待と感動の瞬間を待ち焦がれていました。ついに完成！

甌はひとつになりました。甌の魅力が発揮できる時が来ました。島民の皆さんの「車で里に行ってみよう」「手打まで車で行きたい。」という念願が今ここに実現しました。これからは自由に島内の往来ができるようになります。

このことにより島内外の市民交流が盛んになり、物流により経済が活性化して、さらに観光客の増加も見込まれます。甌大橋の効果は計り知れないものになることは間違いありません。

今年、ウェルネスかごしま健康増進魅力発掘プロジェクトが立ち上がり、宮下純一氏を応援団長に「かごしまLOVE総選挙」が実施されました。そのかごしま旅プラン部門において「甌島って読める？リフ

レッシュ非日常離島旅」というプランがグランプリを受賞しました。甌島全島の魅力が満載のこのプランが、今後の甌観光に明るい展望を指し示しています。同時に、こしきツアーズの旅プランも素晴らしい旅を全国に発信してもらっています。残念ながら現在はコロナ感染防止の観点から自粛を余儀なくされていますが、コロナ感染終息時には日本全国から、世界各国から、この魅力ある甌島の観光がさらに注目されることでしょう。

悠久の古から島を創り出した形跡の残る断崖の数々。ナポレオン岩をはじめとする奇岩の数々。そこに化石の数々が埋もれている魅力。それを集約された甌ミュージアム。優雅に咲きほころぶカノコユリ。豊富な自然の食。なんといっても島民の人情。等々甌島の魅力がこの橋で結ばれると思うと嬉しさいっぱいです。

宝の島甌島が結ばれたことで「こしきはひとつ」になりました。これを契機に交通、経済、観光、人の交流が急速に発展していくことを期待し、市議会といたしましても市民との交流、協議を通じて全市的な一体感の醸成を図ってまいります。甌大橋の完成・開通。誠におめでとうございます。



観光船かご



## 「甌大橋」開通に寄せて

青瀬地区コミュニティ協議会 会長  
 鶴牟田瀬戸架橋建設促進期成会 会長 / 東 実

「甌はひとつ 夢の架け橋実現へ」、島民の想いが詰まったこのスローガンを、長い間夢物語として見てきた気がしています。甌島4村時代の先人たちが、昭和40年代から要望を粘り強く繰り返す中、採択までの道のりは多くの困難もあったことだろうと思われまます。平成の大合併を機に採択への道が開けたときは、先人たちの苦勞が報われた瞬間でもありました。甌島4村が、海を越えた広域合併を選択し、薩摩川内市が鹿児島県で最初に誕生したその褒美としての意味合いもあったと聞いています。先人たちの強い想いと、当時の国・県の関係各位の決断に敬意と感謝の思いでいっぱいです。採択から14年の歳月を経て待ち望んだ開通を迎え、要望に関わった一人として心から喜びを味わっています。

甌大橋の完成で知名度が上がり、観光客の大幅な増加が期待されます。どのようなもてなしができるのか、どうしたら喜んでもらえるのかを観光業に携わる人たちだけでなく、島に住むものとして共有できたらと考えます。また、島内の往来や交流が盛んになることにより、島全体が元気になり、活性化することを望んでやみません。

三つの島が繋がり、文字どおり「甌はひとつ」になりました。この先、島がどのように変わっていくのか、多くの期待をする半面、不安もあります。地域の考え方の違いやエゴを乗り越え、分かり合えて心がひとつになったその先に、私たちが求める「甌はひとつ」が待っているものと信じます。



## 「甌大橋」開通に寄せて

海星中学校 2年 / 梶原 湊士

甌大橋の開通おめでとうございます。

甌島に住んで10年以上が経ちますが、僕は、この甌島が大好きです。その大好きな甌島が、甌大橋という「甌をひとつにする橋」でつながるということを、とてもうれしく思います。

僕は、小さい頃から橋の工事を見てきました。日々つながっていく橋を見ながら、わくわくする気持ちや感動する気持ちがたくさんわいてきました。今は、新型コロナウイルスの影響であまり外出ができませんが、終息したら、甌大橋をきっかけにたくさんの観光客の方が来てくださるとうれしいです。

また、これまで甌大橋の工事に協力してくださった方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。甌大橋がつながるまで、いろいろな出来事があり、完成予定日が2年も延期され、本当に完成するのかという不安もありました。しかし、そんな中で一生懸命頑張ってくくださった工事関係者のおかげで、開通の日を迎えることができたのだと思います。ほんとうにありがとうございます。

今、甌島では、島を離れて生活する人が増えて、島の若者が減っているという問題があります。僕は、進学のために島立ちをしても、将来は甌島に戻り、漁業を営む祖父の跡を継ぎたいと思っています。これまで、漁の手伝いをする中で、祖父からいろいろなことを教わってきました。それをもとに、自分で考えた新しいことにも挑戦したいと思っています。たくさんの海の幸に恵まれた甌島の魅力をアピールして、甌島を盛り上げていきたいです。



## 「甌はひとつ」

中津小学校 6年 / 脇田 隆雅

甌大橋の開通おめでとうございます。

ぼくは、中甌島と下甌島がつながることをとても楽しみにしていました。

2011年から2020年までの9年間にわたり、たくさんの人たちののおかげで甌島が一つになれたことを心から感謝しています。

ぼくは、平良に住んでいます。ぼくの父が子供の時は、甌大明神橋やかこの大橋がなく、上甌島に行くにも船でわたっていたそうです。橋が完成し、自由に行き来できるようになり、とても生活が便利になったと聞いています。

甌大橋ができて島が一つになれたことで、さらに島民の暮らしが便利になったり、観光客も増え、甌島がよりよくなっていくとぼくは思います。

開通式のセレモニーでは、「大敷ばやし」をひろうしました。とても緊張しましたが、貴重な体験ができてうれしかったです。

開通後わたった甌大橋は、とてもすばらしく、橋から見た景色は、とても美しかったです。

ぼくの大好きな甌島を、もっとたくさんの人に知ってもらいたい、そして、たくさんの人に甌島に来てもらいたいです。